

2024年度 冬号

Communication

たまりば  
通信



◆発行日 2024年12月 ◆発行  
〒211-0044 川崎市中原区新城 2-4-1  
セシズイシイ2 401号室  
TEL 044-789-9812

認定 NPO 法人 フリースペースたまりば

<https://www.tamariba.org>

E-mail : [freespace@tamariba.org](mailto:freespace@tamariba.org)

## 追悼 ヒラセン、ありがとう

たまりばが移動型だった頃から、高津区の諏訪、久地、そして夢パーク・フリースペースえんとずっと30年以上たまりばを支えてきてくれたヒラセンこと平林浩さんが10月25日（金）に亡くなりました。心より、ご冥福をお祈りいたします。

90歳を迎えた今年の2月が最後の講座でした。仮説実験授業、ものづくり、野外遠足、サイエンスミニシアターなどなど、ヒラセンとたくさんのかたちを一緒に過ごさせてもらいました。子ども・若者たちも大人もスタッフもたくさんのかたちをヒラセンから学びました。ヒラセンの周りに自然と人が集まり、講座が始まり、みんなから「すごい」「おお！」「えっ、なんでー？」と歓声があがる光景が今でも忘れられません。

2010年に出した『居場所って、どんなところ？』に、寄稿していただいた文章を紹介させていただきます。ヒラセンのこと、ヒラセンから学んだこと、一緒に話せたらと思います。（だいすけ）



### ◆講師のひとこと

●「教える」ではなく「育ちあう」——科学/平林浩  
 「えん」に通い始めて、もう6年になります。正確には「えん」を運営している「たまりば」がスタートする以前からのおつきあいですから、かれこれ20年です。

入口のドアを開けると、「ヒラセン」という声がいつも迎えてくれます。その声を聞きたくてここに通い続けているのかもしれませんが。「ひとがひととして、ありのままに生きている」——ここはそんな感じをもっともある場所です。

学校教育という場で多くを過ごしてきた私にとって、「教育をする」のではなく、「お互いに育ちあっていく」ということをほんとうに実感できた場所です。たくさん年月、私もこの「えん」の中で育っています。いや、育てられているのだと思います。とにかく、ここに居る人がみんなステキに良い人なのです。

「えん」に関わって発見したこと、それは西野さんがいっていた『「たまりば」は治療するところではない』ということの意味を私自身がしっかり捉ええられたということでしょうか。

世の中にうまく適合して生きようと早くからそちらに向かう人もいますが、世の中で、自分がどう生きるかをゆっくりじっくり見つけていく人もいます。そして、世の中で、そのように、その人らしく生きる道をゆっくりじっくり見つけていくことができるような場がここにありました。ここは、そのような場をめざしてつくられているのです。

「えん」のみなさんと一緒にいることによって一番多くのことを学べたのは、じつはこの私かもしれません。

「サイエンスミニシアター」という名で知的な興奮というか、知的な楽しみの世界を共有したいと願ってこの講座をやってきました。でも、まだまだ不十分で、その願いは十全に生かされたとは思えません。体力的に続くのであれば、同時に担当している「ものづくり」や、自然と親しむ野外活動ともあわせて、その世界への試みをこれからも続けていきたいと思っています。——科学教育研究者・出前教師

認定 NPO 法人  
フリースペース  
たまりば  
って…？

1991年川崎市高津区で、学校や家庭、地域に居場所を見出せない子ども・若者たちの居場所として活動をスタート。2003年にNPO法人の認証を受け、同年7月にオープンした「川崎市子ども夢パーク」内の不登校児童・生徒のための居場所「フリースペースえん」の運営を市より委託される。指定管理者制度の導入により、2006年4月から川崎市生涯学習財団と共同で夢パーク全体（フリースペースえんを含む）の管理・運営を行なっている。さまざまな活動を通じ、学校外の多様な学びと育ち、生き方を支援している。

# たまりバラエティ

## 色と色とが重なって・・・

京都の染色家・斎藤洋さんと今年も一緒に野染めをしたよ！自然の染料を使って、大きな布をみんなで染める野染めは、みんなの秋の楽しみです。今年も夢パークの全天候広場いっばいに布を広げて染め物を楽しみました。染料は、玉ねぎの皮、背高泡立ち草、アカネ、マリーゴールド、ラックダイ、ラベンダーなどを煮出して作ったもの。染めながら香りも楽しめます。夢パークの草を束ねて筆にして、みんなで思い思いに染めていきました。サーッと筆を走らせたり、点々と染料をたらしたり、模様を描いたり、色と色を重ねて、新しい色が生まれました。午後からは、斎藤さん達が続けている風の布パピヨンの東北支援のお話も聞かせていただき、



いのちのことを考える大事な時間になりました。(たかこ)

## 車椅子トラベラー、来たる!

11月25日、「車椅子トラベラー」三代達也さんがえんに来てくれました！18歳のとき事故で両手両足が麻痺して車椅子生活となった三代さんが、世界中を旅しているときに会った人たちができごとなど、たくさんの写真を見ながらいろんな話を聞きました。「トイレってどうしてるの?」「お風呂は?」「どこの国がよかった?」興味津々なみんなの質問への答えは、真剣だけどユーモアたっぷりで大盛り上がりでした。後日、三代さんからえんの感想をいただきました！

「思い思いに生きている子供達を見て、夢パやえんという居場所があって良かったなと心から思いました。のびのびとしている姿を見てこれが本来の姿で良いじゃないかと感じま



した。そしてそれが“えんや夢パだから出来た”という現状を一步超えて、いつかインクルーシブやバリアフリーという言葉が死語になり、人との違いが「悩み」から「価値」に昇華できるような未来を作っていきたいと感じました。」(えづれ)

## 初の試み「こども優先時間」

11月4日にこどもゆめ横丁が開催されました。今年の見玉はなんといっても『こども優先時間』の実施です。YTK(横丁たのしくしよ会)の会議の中で、



「スタートから大人がたくさんいると焦っちゃう」、「大人が買い占めて子どもが買えなくなるのは嫌だな」といった声があがり実現した、子どもだけが横丁内に入れて買い物やステージを楽しめる『こども優先時間』。出店者の子どもたちも、お客さんとして来た子どもたちもこれまで以上に活き活きとした素敵な笑顔を見せてくれました！優先時間を知らずに朝早くから来てくださった大人の方々からも「すごくいいね！もっと長い方がいいんじゃない?」といった暖かい声が溢れていました。来年も今から楽しみです。(いけちゃん)

## えんくるの < こども☆きっさ >

学校帰りの子どもたちがやって来る。ジュース1杯とおやつ1個であとは自由に遊ぶ。先日は「プロ野球の優勝記念のビールかけをやりたい」と言う子どもたち。やばそうかなと思いつつ「外でやるならいいよ」と様子を見てみると、ビール代わりの紙コップの水をおかわりするために、7人の子が店内奥の水道まで何往復も行ったり来たり。結果、びしょびしょになった床をモップで1時間近く拭き続ける事態に…。はじめはハラハラしたけれど、最後に全員整列して代表選手役の子が「会場を貸して下さってありがとうございます!!」と締めたときには嬉しかった。

えんくるはフードパントリーを併設しているカフェとして地域に開かれている場でもあり、子どもたちが望む遊びをそのままに実現できないこともある。なにが起こるかも子どもたちと私がどんな反応をするかも未知だから丸腰で行く。気づくと予想外に笑っている。失敗もするけど、自由の意味もこの自分でいいとも子どもたちに教わっている。(なる)



指定管理施設

『やってみよう』がいっぱいある場所です  
**川崎市子ども夢パーク**

川崎市高津区下作延5-30-1  
TEL 044-811-2001 FAX 044-850-2059  
<https://www.yumepark.net/>



# ブリュッケだより

～ブリュッケフェス開催！～

10月下旬、4日間に渡り『ブリュッケフェス』を開催しました。地域の日頃ブリュッケがお世話になっている方（関係者）とブリュッケの若者参加のイベントなので、この記事で当日の様子をお伝えします。9月から話し合いを重ね、準備してきた今年のフェスのテーマは「ここ」。日毎コーヒーマスターやメニューが変わる『カフェ』が常設、そして『知らない世界』、『ゲーム会』、『語り合う交流会』、『なんでも発表会』が催されました。発表系の出演者の中では、本番まで時間が少ないと嘆く人、直前まで緊張している人もいました。『ゲーム会』では専用コントローラーやベイブレードを持ってきた人もいました。いろいろ試行錯誤をした結果、ブリュッケの中は笑顔がいっぱい、「もっと早く出演者募集していたら出たかった」なんて嬉しい声もありました。来年？も楽しみです。（えりさん）



←⑧ゲーム会  
⑨⑩なんでも発表会  
↓⑪カフェ

## 西さんのつづき



心から尊敬する、大好きなヒラセン（平林浩先生）が逝ってしまいました。出会いは「たまりば」を始める前のこと。遠山啓創刊の雑誌『ひと』をもとに開かれていた「ひと塾」や「遠山塾」の事務局をしていた頃からの付き合いでした。もう35年以上前になるでしょうか。子どもに媚びず、ウケを狙ったパフォーマンスはやらない。質問を投げかけ、子どもたちが考え、仮説を立てて語り合い、実際に実験して確かめてみるという仮説実験授業。「学ぶって、こんなに楽しいんだ」ということをしっかりと教えていただきました。ドライアイスを使って即席アイスクリームを作ったり、多摩川の土手で鳥を観察したり、手づくり花火に挑戦したり、水晶採りやキノコ探し、ムササビに会いに野外体験にも出かけました。そこにいてくれるだけで安心は広がり、子どもたちが繰り出す質問には、どんなことでも丁寧に答えてくれました。今年2月の90歳のお誕生日まで現役を続け、実験道具を詰め込んだ大きなリュックサックを担いで、「えん」まで出前教師に来てくれました。あの穏やかな笑顔がもう見られないのは、本当に寂しいです。かつて『子どもとゆく』というミニコミ誌で私がヒラセンにインタビューした記事にこんな言葉があります。「人生は出会いで決まってくると思うから、多様な出会いの中で、これだ！と直感できる力、イメージを鍛えていくことが学力だと思うんです。（中略）その直感の基礎となるようなものをどこで学び取っていくか、どう出会うかの問題ですね。だからボクは“学力とは出会いをものにする力だ”と言い切っているんです。

この春食道がんが見つかり、在宅治療で胃ろうが始まっていた9月にご自宅を訪ねて、1時間ほどお話をきかせていただきました。「学ぶって楽しいよという大人が、子どもの周りにわんさとふえなくちゃね」「子どもは知りたがりの、やりたがり。そのじやまをしないで、助けてあげられることがあったら、助けてあげればいい。」「子どもの好奇心を支えるには、やはり大人の存在のあり方を何とかしなければならぬ」と休み休み語られました。これから何回かお宅に通わせていただき、先生の言葉を次世代の人たちに伝えるお約束をしてお別れしたのが、9月16日の敬老の日のことでした。でもその約束はかないませんでした。こんなに早く旅立ってしまわれるなんて、無念です。ヒラセンありがとうございました。心からご冥福をお祈りします。（西野博之）



## HAPPY えんブリヂェイ

★フェスティバルに向けてプロジェクト X が活動を始めています。今年のテーマは『やっぱりたののしい♪』。オリジナルキャラ「やっぴー」と「たののん」が大活躍する予定!?毎年、プロジェクトメンバーの顔ぶれによって味わいが変わるのがフェスティバルの醍醐味。今回はどんな感じになるのか楽しみに！本番は3月8日(土)です。（ハイホー）  
★12月20日(金)は、えんのクリスマス会でした！総勢150人ほどが集まって大盛況～！普段なかなか会えない人や、はじめましての人にも会えるのがいいですね。ほっぺが落ちるほど美味しい料理と、アンコールが起こったスライドショー、思い思いのステージ、そして極め付けのピンゴ大会！みんなワクワクしてたなあ。あー書ききれない！（わら）  
★今年 JBBY さんに沢山の本を寄贈して頂き、子どもたちが本を手に取りやすいようにと本棚の整理をしました。本棚の配置替えも行い、ちょっとした隠れ家のような読書スペースができました。（配置が変わったのはえん開所以来初？）以前より本を手にしやすくなり、子どもたちも気に入った様子でした。（としちゃん）



川崎若者就労・生活自立支援センター  
ブリュッケ

「Brücke」は、ドイツ語で「かけ橋」。

居場所で人と人がつながり、居場所から地域へ、地域から就労へ、様々なつながりが生まれていく。

そんな人から人への「かけ橋」になっていけたら・・・。

\*ブリュッケでは、川崎市内にある福祉事務所のケースワーカーと連携し、15～39歳までの若者たちの居場所・就労支援を行っています。

## インフォメーション

★詳しくは事務局まで★

### たまりばフェスティバル 2024～やっぱりたののしい～

2025年3月8日(土)14:00～17:30(13:30開場)

「えん」で一年間行なってきた講座や企画、メンバーのオリジナル演目の発表イベントです。歌・ダンス・楽器演奏・創作劇から作品展示まで、毎年盛りだくさんの内容でお届けしています。子ども・若者たちによる実行委員会「プロジェクトX」を中心に絶賛準備中！あなたも参加して、目一杯フェスティバルをたののしんじやいましょう♪

チケット：子ども100円、中学生から500円、おとな1,300円  
協力券：1,000円(当日+300円で入場できます)

※チケットのお求めは「えん」まで。当日券もあります。

### 夢パーク 初夢！新春イベント

2025年1月12日(日)11:00～15:00(17:00閉所)

夢パークで「もちつき」「どんど焼き」「昔遊び」「かきぞめ」などを楽しもう。「天下一ペーゴマ大会」もあるよ！※雨天決行

## フリースペースって、どんなところ？

「不登校」「ひきこもり」の子ども・若者の居場所づくりについて、画像等をまじえて「夢パーク・フリースペースえん」の活動紹介と質疑応答など意見交換を行ないます。

第6回 2025年2月15日(土)10:00～12:00

対象 フリースペース(居場所)の活動や、不登校・ひきこもりについて関心のある方  
会場 川崎市子ども夢パーク内「多目的ホール」  
参加費 500円 <要予約・各回先着順>  
申込み 第6回 2025年1月6日 12:30から受付開始  
※申込みの際は詳細をホームページでご確認ください。

☆開催日が近づきましたらホームページでご確認をお願いします☆

たまりばホームページ <https://www.tamariba.org>

たまりば Facebook

<https://www.facebook.com/tamaribaNPO/>

## ご支援いただきありがとうございます

(2024.9.1～2024.11.30)

NPO法人フリースペースたまりばに、応援会員として会費を入金してくださった方、カンパをいただいた方のお名前です。(敬称略・順不同。希望されない方は掲載しておりません。掲載もれなどの不備がございましたら事務局までご連絡ください。)

赤野香織・一将、坪滝治郎、朱田貴美、朝香広宣、安彦景介、新井琴乃、新井野誠、安西巻子、飯沼光津子、石井、石川共平、板谷宏美、今村久美、岩田京子、岩村祐一、内田成信、内田孝裕、内田安信、梅本えりか、大石雄太、大堀悠、岡田孝子、沖津三千治、奥田礼子、奥山英雄、小原宏一、金子大也・麻子、亀井三由希、木内英紀、木崎志保、杏貞子、古泉聡洋、小出来誠、齋藤洋、齋藤美貴子、坂上優子、佐故潤之輔、佐々木直人、澤畑明見、重江良樹、清水彩可、清水俊昭、鈴木美汐、田老香奈・幸子、武井哲郎、竹内昭、土橋優平、手柴充博、遠山宗子、友兼大輔、中村勇、夏堀剛稔、新居千文、日本キリスト教団 溝ノ口教会、野口由美子、野田岳志、橋本誠一、橋本峻、林摘菜、久田みさ子、平野知恵、藤村留里、本田正男、町田恵美、松浦えりか、松木雅幸、三浦いつみ、光富真希子、宮崎芳正、三好洋子、矢崎達則、安田靖子、山口正芳、山下泰司、山下晴子、山本哲也、吉井望、吉村友紀子、渡邊晃、渡邊由美、野田美保子、コンペイトウ、安平地区まちづくり協議会、有限会社イムラ、チーム ブリリアント、国際ソロブチミスト 川崎一百合

## 応援会員募集中!!

フリースペースたまりばの活動のためにあなたのお力が必要です!

振込先→郵便振替口座 00200-2-57382 特定非営利活動法人 フリースペースたまりば

\*郵便局の自分の口座からなら、手数料が無料で振り込めます。

※他金融機関からも入金できるようになりました。口座番号は↓(支店名を「セ」で検索してください)※

〇二九(ゼロニキュウ)店 (029) 当座 0057382

詳しくは事務局まで TEL 044-789-9812



## コミュニティスペースえんくる

えんくるは、フードパントリーを併設した「まちの広場」です。

子どもはもちろん、誰もが立ち寄れる居場所を目指しています。

〒214-0021 川崎市多摩区宿河原 6-26-24 フジビル1階 TEL: 044-813-5248

公式 LINE

